

令和 8 年度地域福祉計画策定委員会 議事録要旨

■ **開催日時** 令和 8 年 8 月 6 日（木） 午前 1 0 時 0 0 分から午前 1 1 時 3 0 分まで

■ **開催場所** さわやかホール 4 階 大会議室

■ **出席者**

＜委員＞ 10 人

上田和美委員、奥西治委員、歸山麗子委員、巽康宏委員、藤山久仁子委員、西川美和子委員、長谷川和彦委員、古田ミキ委員、益田ちあき委員、渡辺一城委員

＜町・事務局＞ 3 人

けんこう福祉部芝部長、社会福祉課岸本課長、坂口課長補佐

＜町社会福祉協議会＞ 3 人

西方氏、小泉氏、原田氏

＜傍聴者＞ 2 人

■ **次第**

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 事

- ・ 令和 7 年度における第 2 期計画の進捗状況確認
- ・ 広陵町における重層的支援体制整備事業の取り組みについて
- ・ 広陵町における福祉のまちづくりの実績について

4 そ の 他

5 閉 会

■ **配布資料**

- ・ 資料 1 令和 7 年度 第 2 期地域福祉計画進捗状況評価一覧
- ・ 資料 2 - 1 ～ 3 広陵町における重層的支援体制整備事業の取り組みについて

- ・資料3 広陵町地域福祉計画策定委員会名簿
- ・資料4 広陵町地域福祉計画策定委員会設置条例
- ・資料5 広陵町における「福祉のまちづくり」の実績

■ 議事内容

1 開会

事務局から本日の欠席者の連絡や資料確認等を行った。

2 委嘱状の交付

2人の新任委員の委嘱状交付に当たり、委員の紹介及び事務局紹介を行った。なお、新任委員の任期は、前任者の残任期間（令和8年8月6日～令和8年8月26日）である。

4 委員長あいさつ

（渡辺委員長）

年に1回の事務事業の点検評価、進捗状況の確認になる。忌憚ないご意見をお願いしたい。

5 議事

・令和7年度における第2期計画の進捗状況確認

（事務局説明） ※箇条書き

- ・4つの基本目標に基づいた施策に対して各課自己評価したもの

→4つの基本目標

- ・基本目標1は「地域で支え合う仕組みをつくる」。地域をはじめ、福祉に関係する各種団体、ボランティア、行政等全体での支え合いの構築、体制整備・連携強化について記載。
- ・基本目標2は「安心して暮らせる仕組みをつくる」。行政各部署の施策・事業を記載しているため、4つの中で一番項目が多い。
- ・基本目標3は「いきいきと暮らせる仕組みをつくる」。高齢者や障がい者の居場所づくりや健康づくり、介護予防などについて記載。
- ・基本目標4は「いのちを支える仕組みをつくる」。自殺対策計画として一体的にしているもの。自殺・自死しないための取り組みや啓発などを記載。
- ・評価全体 評価を行った事業のうち、A評価47、B評価55、C評価11、D評価1、E評価4となっ

ている。令和6年度まではA～Dの4段階評価だったが、より詳細な評価を行うため、昨年度からA～E 5段階評価を採用している。事業全体の86%はA及びB評価であり、本計画に基づいて施策や事業が順調に進められているといえる。

- ・ここでいくつかの事業をピックアップさせていただき、ご紹介させていただく。その前に空欄になっている事業について説明させていただく。
- ・資料1の1枚目ゲストティーチャーについて、各小学校で認知症キッズサポーターや盲導犬の学習など、外部講師を招いて学習を進めている。各学校とも全学年で実施できていないため、今後のより一層の充実を検討していく意味で、B評価としている。
- ・資料1の6枚目裏面のユニバーサルデザインの視点に立ったまちづくりについて、取り組み実施内容として、広陵町第1号近隣公園において、段差のないアプローチ、キッズトイレを併せた多目的トイレを更新し整備したとなっている。今後の方向性については、引き続き国の交付金等を活用し、ユニバーサルデザインの視点に立った整備を図るところである。
- ・続いて個々の事業を紹介する。資料1の2枚目表、BLEタグの事業について説明する。この事業は、お守り型の見守り端末を、小学生がランドセルなどにつけて、見守りスポット付近を通過することで位置情報が記録される。学校や通学路上のお店が見守りスポットになっているほか、専用の見守りアプリをインストールしたスマートフォンを持っている人とすれ違う時にも記録される。インストールしていただいた方が見守り人となり、通勤や散歩などのいつもの行動が、地域の見守り活動になり、結果として地域の安心・安全につながるという事業になっている。
- ・次に導入実績などについて説明する。進捗状況としては、令和6年1月からデジタルを活用した見守りサービスとして、広陵西、北小学校区において実証実験を実施し、有用性が確認されたため、令和6年9月から全小学校区で実施している。BLEタグの配布状況について、令和8年3月末時点で、全小学校の児童数2,510人に対し、利用者は939人、利用率は37.41%となっている。北小学校・西小学校は、実証実験を実施したことで他校よりも利用率が高くなっており、全校共通として、低学年の利用割合が高く、高学年になるほど利用が少ない状況である。参考として、検知ポイント数は127ヶ所、見守り人数は127.5人となっている。今後は、中学生以上の全世代を対象に、希望される方に対して受益者負担でサービスを展開する予定としており、地域全体の見守り活動につながっていくことを期待している。
- ・資料1の8枚目表面の福祉関係団体向けゲートキーパー研修について説明する。ゲートキーパーは、「悩んでいる人に気付き声を掛けてあげられる人」のこと。これまで福関係の団体に実施していた。令和6年度は町職員を対象にし、令和7年度は民生児童委員が一斉改選となるため、民生委員と一般参加の方も加わり、養成講座を実施した。

- ・ゲートキーパーが増えることで、地域の見守りの輪が広がるということになる。地域で誰もが孤立せず、安心して暮らしていけるために、重要な役割であると考えている。お手元にゲートキーパー手帳を用意したので、持ち帰り内容を確認いただきたい。

【質疑応答】

(委員)

BLEタグについて、こんなにも利用率が低いと思っていなかった。

実際のアプリはそこまで活用できていない。学童に入っている児童も多く、必要ない方もいる。

(委員)

評価について、Aにした理由を取り組み内容や実施内容で書いているのかと思うが、「行いました」ではなく、「行います」でBにしている。したことに対する評価ではないかと思う。できていないと右側の今後の方向性に続いていくのではないか。評価理由が実施内容に反映されるとよりわかりやすいのではないかと思う。

(事務局)

各課の担当の自己評価になっているため、評価にばらつきが出ているのが課題だと思う。

シートの提出だけでなく、各課へのヒアリングの実施など、次の進捗確認で色々改めていきたいと考える。

(委員長)

各課の書きぶりに統一感がないのは否めないなので、また是正いただけたらと思う。

事業を実施してからの成果や、どのような変化が生まれたかという評価がいいのではないか。

次年度に向けて検討いただきたい。

(委員)

年度当初に数値目標を出すのがいいのではないか。数値目標を出すのがいいと思う。

BLEタグの利用率も高いか低いかわからない。例えば年度当初で50%にするなど目標を立てると、進捗確認がわかりやすい。数値的に甘い評価となっているので見直してもらえたらと思う。

(事務局)

主観的な評価になり、数字的な根拠が乏しくなっている。目標と達成を見える化するなどし、進捗確認していけたらと思う。

(委員長)

数値化できにくいところもあるので、そこは文章ベースでの評価になると思う。

例えば、BLEタグを使って、利用率をあげるのを目標とせず、こういう機会につながったというのが大事かと思う。当初高齢者に対する事業も考えていたのではないかな。

(事務局)

認知症の方への徘徊の対応で活用することを考えていたようであるが、対象者の選定や受益者負担の問題などもあり、担当課が今後も継続して検討されるのかと思う。

(委員長)

徘徊高齢者の模擬的訓練を地域的にするのもよいのではないかな、他の地域での実施も聞いている。そのような活動につながっていくのが地域福祉課だと考える。

(委員)

評価基準を記載されると理解しやすいと思う。

例えば前年度できていて、今年度でもできているものをBとするなど、前年度を基準として評価基準を入れてもらえばわかりやすいのではないかな。

(委員長)

内部的な基準は設けているのか。

(事務局)

詳細な設定はできていないので、前年度と比較するなどの評価を考えていきたい。

(委員長)

是非とも明確にしていけたらと思う。

(委員)

BLEタグのことは知らなかったが、現在、犬の散歩で刀を振り回している人がいるという問題がある。地域交番の立ち上げができればいいと考えてる。その際は協力いただきたい。

(委員)

児童委員から警察で見守りしている話を聞いている。

(委員)

警察で身元を把握され、落ち着いたようである。

(事務局)

その情報に関し、民生委員から事前に聞いていた。警察からも聞いている。

(委員長)

地域の防犯体制を検討する事案かと思う。またお気づきの点等あれば、事務局に連絡してください。

・ 広陵町における重層的支援体制整備事業の取り組みについて

- ・ 広陵町では令和8年度から重層的支援体制整備事業を本格実施していくことになった。そこで、広陵町重層的支援体制整備事業実施計画を策定し、広陵町重層的支援体制整備事業実施要綱を定めた。
- ・ 重層は人と人、事業と事業の重ね合わせであり、今ある資源を組み合わせながら地域共生社会の実現を目指していく事業である。
- ・ 実施計画策定の背景・目的として、国全体で急速な高齢化や単身世帯の増加などにより、家庭や地域のつながりが希薄化し、以前に比べて社会的孤立の問題が増加している。今ある社会資源を活用し、地域全体で支え合う体制の必要性が高まっている。特に課題となっていることについて、3点説明する。
- ・ 1つ目は、支援ニーズの複雑化と複合化である。急速な高齢化やデジタル化の進展、また社会構造及び経済情勢の変化により、従来の高齢、障がい、子ども。生活困窮といった既存の分野ごとにおける縦割りの支援体制では対応が困難であり、複数の課題を同時に抱える世帯や個人が増加している。

- ・ 2つ目は、制度のはざまの人への対応である。例えば生活困窮世帯ではない、20から30代のひきこもりの人といった、公的支援制度の受給要件を満たさないため、必要な支援を受けられず、置き去りにされてしまう制度のはざまの人が増加傾向にある。早い段階でアウトリーチし、支援を行わないと社会復帰が困難になるおそれがある。
- ・ 3つ目は、地域の福祉の担い手や支援者不足の課題である。これまで定年後の60歳以上や専業主婦の方々は、地域福祉の担い手として、さまざまな関わり方をしていたが、生産年齢人口の減少が主要因となって、定年延長や夫婦共働きなどにより、地域での活動時間が減少している。
また福祉サービスのニーズの高まりにより、福祉専門職をはじめとする支援者不足も指摘されている。
- ・ こうした背景を受け、地域共生社会の実現のために社会福祉法等の一部を改正する法律により改正された社会福祉法において創設された重層的支援体制整備事業が、市町村の努力義務となり、本町では令和6年度、7年度を準備期間とし、令和8年度から本格実施することになった。
- ・ 重層的支援体制整備事業は、相談者の属性や分野を問わない「包括的相談支援事業」、社会とのつながりを回復・構築する「参加支援事業」、多様な主体による「地域づくり事業」の3つを一体的に提供する包括的な支援体制の構築が求められているため、本町でもしっかりと進めていきたい。
- ・ 計画の位置づけは、各個別計画と連携・整合性を図りながら、地域福祉計画に最終的には包含する形で実施していく予定である。計画期間は、令和8年度から令和10年度までとしている。
- ・ 計画の実施体制としては、断らない相談体制を中心とし、各機関が相互連携・情報共有を図り、多機関と協働しながら、重層的支援体制整備事業を進めていきたいと考えている。
- ・ 支援会議と重層的支援会議の説明であるが、支援会議では気になる事案の情報共有や庁内関係において、連携をしっかりととりながら進めていき、重層的支援会議は、支援会議を経て、既存では解決できないものについて、支援プランに基づいて検討していく会議である。
- ・ 重層的支援体制整備事業の実施内容について、「包括的相談支援事業」「参加支援事業」「地域づくり事業」の3つを一体的に行うものとされている。
- ・ 包括的相談支援事業として、福祉なんでも相談窓口を設置し、相談者の属性、世代、相談内容に関わらず包括的に相談を受け止め、相談者に寄り添った情報提供を行っていくものである。参加支援事業は、地域や社会への参加支援に向けた事業に対して、地域や社会とのつながりづくりに向けた支援を行っていくものである。地域づくり事業は、既存にある地域の居場所であり、居場所の整備を行っていけたらと考えている。
- ・ 計画の目標の設定として、2つ設定している。1つ目は、参加支援事業の観点から、「サロンに参

- 加する人を増やす」とし、現状値４．７％のところ令和１０年度の目標値を１０％としている。
- ・２つ目は、地域づくり事業の観点から、「地域活動・ボランティア活動に参加する人を増やす」とし、現状値１７．８％のところ令和１０年度の目標値を２５％としている。
 - ・実施計画の検証、評価のポイントとし、PDCAサイクルについて掲載している。事業を振り返りながら進行管理を行い、改善検証していきたいと考えている。
 - ・資料２－２の要綱については、目的などを定めており、実施計画と共に重層的支援体制整備事業を進めていきたい。
 - ・資料２－３について、これまでの実績と今後について記述している。令和６年度の実績としては、部課長会や民生児童委員、本計画の委員の皆様に対し、重層的支援体制整備事業の説明を行った。
 - ・令和７年度においては、多機関協働会議体制の整備を行い、各専門機関を構成員とする多機関協働会議体を発足させた。
 - ・広陵町社会福祉協議会内に、福祉なんでも相談窓口を設置するとともに、庁内のプロジェクトチームとして、広陵まるとサポート隊を組織し、専門職を中心とした断らない相談支援体制を構築した。
 - ・重層的支援体制整備事業を開始しても、すぐ目に見えて何か変わることは難しい。今後も関係機関と連携、協働しながら地域福祉を進めていきたいと考えている。

【質疑応答】

（委員）

民生委員が関わることで問題となっているのが休業時及び夜間の対応が増加している問題である。

３６５日、２４時間民生委員に休みはない。行政、社協との連絡方法等についても計画に入れていただきたい。住民が夜間に抱える不安が増加している。社会福祉法の改正により、単身高齢者の対応の仕方も変わっている。行政の連絡体制を今一度考えてほしい。

（事務局）

２４時間稼働しているのは、役場宿直になる。緊急時は、役場の宿直から職員に連絡が入る体制になっている。情報伝達において、今後も漏れ落ちないようにしていきたい。

(委員長)

社会福祉協議会の緊急時の対応はどうなっているか。

(社協)

こういったことを初めて聞いたため、今後検討していきたい。

(委員長)

学生が、田原本町社会福祉協議会に実習に行っている。田原本町の地域包括支援センター主催で、身寄りの無い高齢者の研修会が最近実施され、警察や消防の方を講師として、対応方法等について勉強会をされていた。緊急時にどのような対応が求められるか、寸劇でケースを紹介したりされていた。今後、休業時や夜間の対応について、研修など積み重ねていく必要があるのではと思う。

(委員)

最近の事例の中で、夜間に救急車を呼ばれた高齢者が、「同乗してもらえない人がいない」ということで民生委員に応援要請が来たという事案があったが、厚生労働省の公式サイトでも「救急車への同乗は民生委員の任務ではない」とされており、このような情報が警察や消防と共有できていないようである。また、保護した人を民生委員が迎えに行くことも、法律上できない。このようなルールについて、行政や関係機関と共有できる場があればと思う。

(委員長)

どういうところで緊急対応できるか、例えば、介護タクシーの一覧を作成して共有するなど環境整備が必要ではないかと思う。

(事務局)

昨年度、多機関協働会議体制による会議を開催した。既存のサービスや制度でまかなえない課題について、話し合える場である。次の課題で提供できたらと考える。

(委員長)

支援会議、重層的支援会議の実績はあるか。

(事務局)

重層的支援会議の実績はまだないが、個別のケース会議については行っているので、振り返れば支援会議だったものはいくつかある。

(委員長)

次の会議の際に、また実績として報告いただけたらありがたい。

以前に課長と補佐に話したが、別の市町村で重層的支援体制整備事業を推奨している町があり、住民への啓発が大事ということで、シンポジウムを開催する予定である。そのシンポジウムのチラシを、長年社会福祉協議会で関わっている、ひきこもりの方が書いてくれたという話を聞いた。そのようなエピソードは参加支援につながっていく。細かなケースを積み上げて、事例として紹介いただけたらと思う。

・ 広陵町における福祉のまちづくりの実績について

- ・ 資料 5 と広陵町社会福祉協議会から提供いただいているボランティア登録の一覧を見ていただきたい。地域で活動されている町内での団体を紹介したいと思う。
だれもが孤立せず、地域で暮らしていくためには、お互いに助け合う関係が必要であり、日頃から助け合う仕組み作りが大事である。
- ・ せっかくの機会なので、委員が所属されている団体の活動について説明いただきたい。
- ・ 委員に 18 ページの赤十字奉仕団の活動について説明いただく
(婦人会は令和 5 年に休会したが、赤十字奉仕団に移行して活動している。主な活動は献血や、出初め式、防災訓練時の炊き出し、社協の配食事業の弁当づくり、募金活動などである。)
- ・ 委員に 25 ページのほっぷすてっぷの活動について説明いただく
(毎月第 3 土曜に体を動かしたり、調理をするなどして公民館やさわやかホールで活動している。ボランティアに来ていただいたら一緒に楽しめる会である。)
- ・ 委員に 42 ページの広陵町介護予防リーダーKEEPの会について説明いただく
(自分の足で歩いて元気で過ごしたいと思う方が増えている。体操や話をしたり、地域の方が足を運んでいただける場所づくりを目指し、元気になってほしいと思い活動している。)
- ・ 委員に 46 ページの広陵町防災士ネットワーク活動状況について説明いただく
(概ね 160 名の組織であるが、メンバーも高齢化している。今年、日本防災士機構から表彰を受け、非常にありがたい。まだまだ課題もあるため、引き続き活動し、盛り上げていきたい。)
- ・ 地域ではたくさんの方が活動していただいている。地域の居場所が 1 つでも増えるよう、体制整

備を検討していけたらと思う。貴重な資料となっているため、また見ていただけたらと思う。

6 その他（次回のスケジュール等）

（事務局）

報酬支払いのお知らせ、次年度以降の開催及び委員の継続についてお願いする。

7 閉会（11時30分）

（以 上）